

# 雨仕舞 特記仕様書(1)

雨水浸入リスクの高い仕様の確認

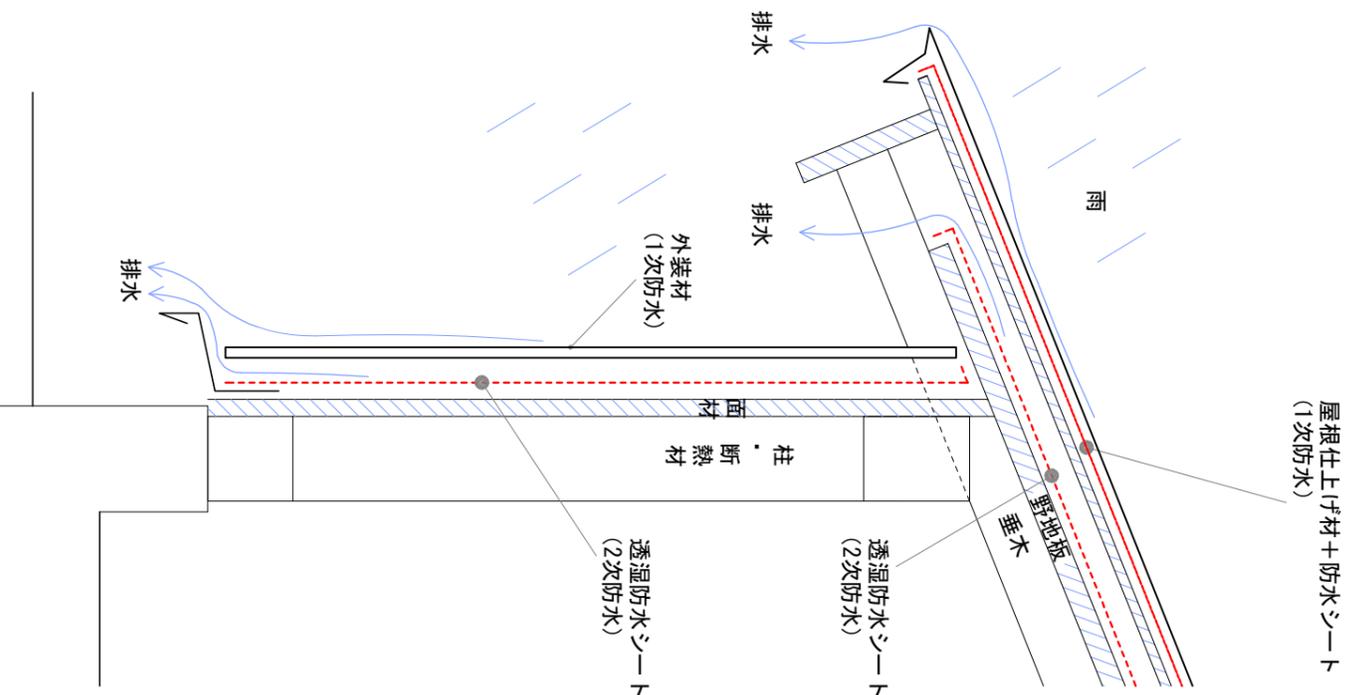
- 軒、けらばの出が無い
- 変形窓の使用がある
- バルコニー及び陸屋根の設計計画がある
- ルーフバルコニーの設置がある

↳上記仕様に該当する場合は

防水施工マニュアル(住宅用防水施工技術)2017

日本住宅保証検査機構 編 参照

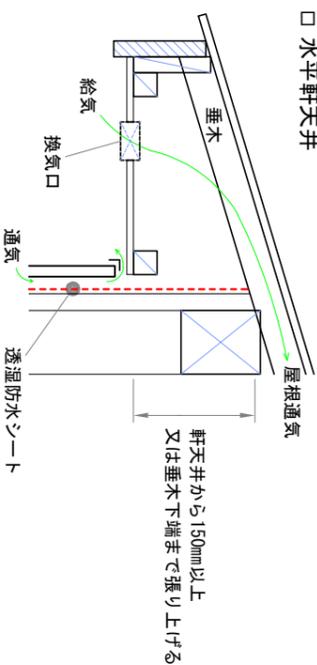
雨仕舞いの基本的仕組み



基本的な雨水は、仕上げによって流すことが可能である(1次防水)が、隙間から浸入してしまった雨水は仕上げ材下の通気層を兼ねた透湿防水シートで排水を促す(2次防水)  
屋根の仕上げ材(1次防水層)下だけは、防水に特化した素材(例: アスファルトルーフィング)を用いることが望ましい

## ■ 屋根(軒)

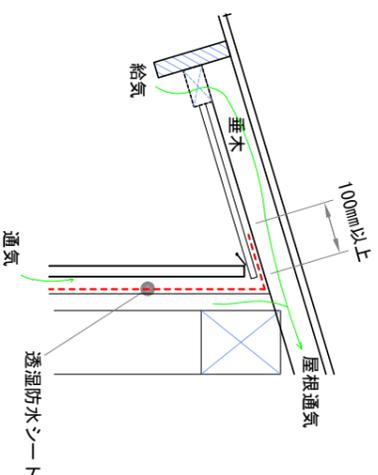
水平軒天井



換気口を設ける場合は、防雨効果を有するものを使用する

台風時の吹き付け風で入り込んだ雨水を構造材に当てないため、防水紙を軒天上から150mm以上又は垂木下端まで張り上げる

勾配天井 天井材垂木直張り

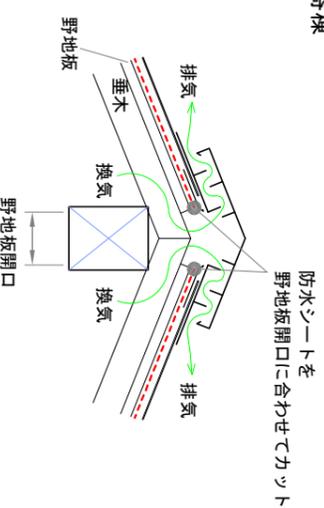


台風時の吹き付け風で入り込んだ雨水を構造材に当てないため、透湿防水シートを垂木下端まで張り上げる、且つ通気胴縁の上から100mm程度巻き上げる

屋根通気に影響が出るため、防水紙は垂木の上端までは張り上げない

## ■ 屋根(棟部)

切妻、寄棟

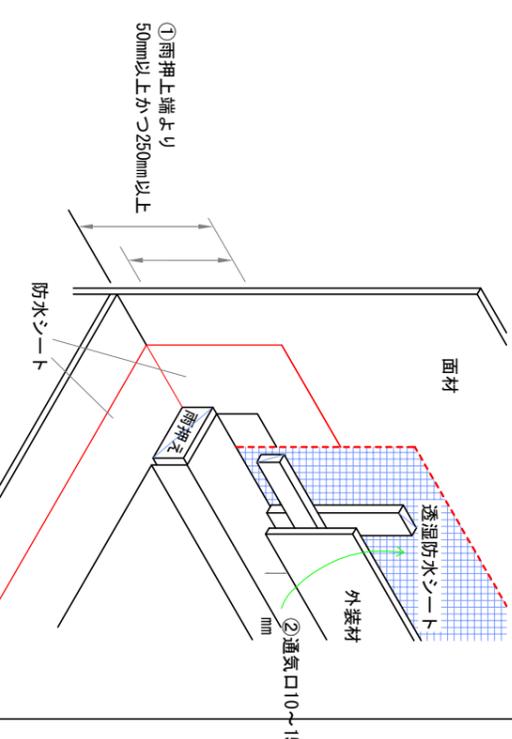
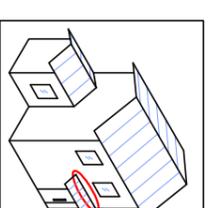


棟換気口は、製造所指定の施工方法を順守する

室内の水蒸気等が棟換気で排気されるのを邪魔しないために、野地板開口部分は防水シートを野地板に合わせてカットする

## ■ 下屋の施工

外壁と下屋の水し納まり

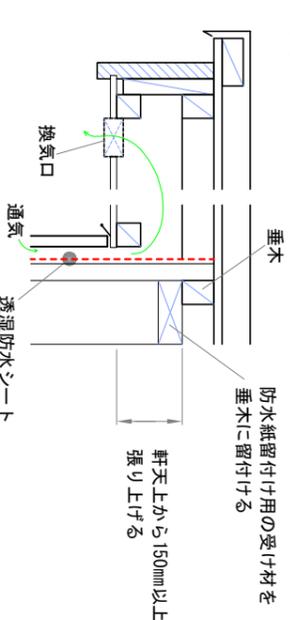


①雨押え端より50mm以上かつ250mm以上

- ① 台風時に吹き付け風で入り込んだ雨水を面材に当てないため、屋根面と壁面取り合い部のルーフィングは、250mm以上かつ雨押え上端より50mm以上張り上げる
- ② 外壁の通気層から浸入した雨水を逃がすために、外装材と雨押えの間は通気口として10~15mm開けておく

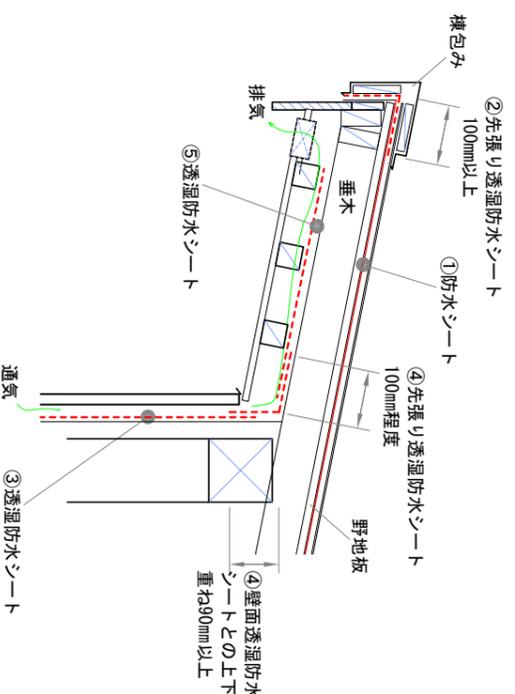
## ■ 屋根(けらば)

軒裏換気



台風時の吹き付け風で入り込んだ雨水を構造材に当てないため、透湿防水シートを軒天上から150mm程度垂木下端まで張り上げる

片流れ(軒裏換気)



- ① 野地板の上に防水シートを張る
- ② 先張り透湿防水シートを防水シートとの重ねが100mm以上になるよう棟頂部に張る
- ③ 外壁用面材に透湿防水シートを張る
- ④ その上に、③との重ねが90mm以上になるように先張り透湿防水シートを垂木に向かって100mm程度張り上げる
- ⑤ ④の上から透湿防水シートを重ね、野縁や下地材などで通気層を取る